

令和4年度 印西市立印西中学校 学校評価の総括

1 「教育方針・目標の理解」について

生徒に関しては、1年生が最も意識が高く97%が肯定的評価をしている。2年生及び3年生は93%であった。職員がよく理解しているのは当然であるが、保護者の肯定的評価が81%であった。昨年度よりわずかではあるが(+1.7P)上昇した。学校教育目標を学校だよりのタイトルにしたことで、ある程度理解に役立ったとも考えられる。

2 「意欲的な学習態度」について

生徒に関しては、1年生83%、2年生72%、3年生92%が肯定的評価をしている。現3年生の昨年度の割合は71%であったので、これまでの継続的な粘り強い指導と、受験への意識が高まったことの表れと考えている。ただ、2年生と1・2年生の保護者の割合が80%未満であるので、学習意欲向上のため指導方法の工夫改善に努めてまいりたい。

3 「授業力向上」について

「授業がわかりやすい」と回答しているのは、1年生94%、2年生91%、3年生95%となった。肯定的評価については、生徒が93%、保護者が76%で、その差が17Pと、昨年度より差はやや小さくなったものの、まだ大きな差をとらえている。この設問に関しては、生徒と職員はほぼ同じ傾向を示すが、保護者との乖離が大きい。生徒と保護者のコミュニケーションの取り方や、保護者の関心を高めるための情報提供のあり方を工夫していきたい。

4 「家庭学習の充実」について

「家庭学習に励んでいる」と回答しているのは、1年生86%、2年生88%、3年生98%となった。一昨年度以降、1年生の段階から家庭学習に励む生徒の割合が高くなり、安定してきた。しかし、保護者の肯定的評価がわずかながら(-1.3P)下降した。特に1・2年生の保護者の評価が70%台となっている。職員に関しては、家庭学習の習慣化に係る指導について、評価が下降しているので、次年度は個に応じた家庭学習の内容や指導方法について、さらに工夫改善に努めたい。

5 「友達への思いやり」について

昨年度に続いて、生徒、保護者、職員の意見がそろった肯定的評価である。生徒より保護者の肯定的評価が高い項目である。思いやりの心、豊かな心の育成について、引き続き指導の重点のひとつとして取り組んでいきたい。

6 「道徳・心の教育の充実」について

本校の道徳教育は、充実している。道徳教育推進教師を中心に全校道徳を各学期1回実施した。また、若年層教員とベテラン教員との相互授業参観を実施し、内容の充実のみならず、授業力の向上も図っている。加えて、人権教育にも力を入れている。

肯定的な評価については、生徒が98%、保護者が93%であった。昨年度と比較すると生徒は+0.3P、保護者は+2Pとなった。保護者の評価が高かったのは、学校での実践内容を、学校だよりや学年だより、学級通信及びホームページ等で発信していることが奏功したと考えられる。

7 「健康づくり」について

昨年度と比べて生徒の肯定的評価が－2.8 Pとなった。下の学年ほど肯定的評価の割合が低い。保護者の肯定的評価の割合が上昇し、80%を超えた。健全な心身の発達のため、多角的・継続的な健康教育を推進していきたい。

8 「一人一人の児童生徒の理解と尊重」について

肯定的評価は、生徒96%、保護者91%であった。昨年度と比較すると生徒+3 P、保護者+4 Pとなった。生徒指導の重点である生徒理解に努め、一人ひとりを大切にしたい個に応じた指導の成果と捉えることができる。

9 「いじめ問題への対応」について

生徒に関して、肯定的評価は1年生97%、2年生92%、3年生99%であった。保護者の肯定的評価の割合は90%で、昨年度と同じ割合であった。職員が初期対応の重要性を理解して、少しでも兆候が見られた場合、組織的に対応し、家庭との連絡も密にとってきた成果と考えられる。

10 「学校の支援体制」について

生徒の肯定的評価は、1年生91%、2年生94%、3年生96%であった。保護者の肯定的評価については、93%で、昨年度比+1 Pとなった。相談・支援体制の充実、生徒指導の原点である。今後も力を注いでいく。

11 「安全と事故防止」について

生徒の肯定的評価は99%、昨年度比+2 Pであった。保護者の肯定的評価は97%、昨年度比+2 Pである。安全に絶対はない。その姿勢を持って全校で安全教育に取り組んでいる。生徒もそれを理解しているし、保護者にも学校の取組が伝わったことがわかる。

12 「施設・設備の改善・充実」

肯定的評価は、生徒が84%、昨年度比+1 P、保護者が75%、昨年度比±0、職員は32%、－1.2 Pとなった。校舎の老朽化が進み、職員で可能な限り修繕を行っているが、その対応にも限界があるため、職員による肯定的評価が低くなっている。ただ、コロナ禍でPTA環境整備作業は実施できなかったが、2月の同窓会環境整備作業は実施することができた。保護者や同窓会のお力をお借りしながら、「古くてもきれいな学校」を目指して、引き続き職員も生徒とともに活動していく。

13 「家庭や地域との連携協力」について

肯定的評価は、生徒が75%、昨年度比+2 P、保護者が83%、昨年度比+4 P、職員については76%、昨年度比+2 Pとなった。保護者以外の肯定的評価が80%未満となったのは、コロナ禍の影響が考えられるが、昨年度より上昇しているのは、コロナ禍の中でも、可能な範囲でできるだけ代替行事や、新たな取組を実施してきたことが要因であると考えられる。

文責 校長 渡邊 義規